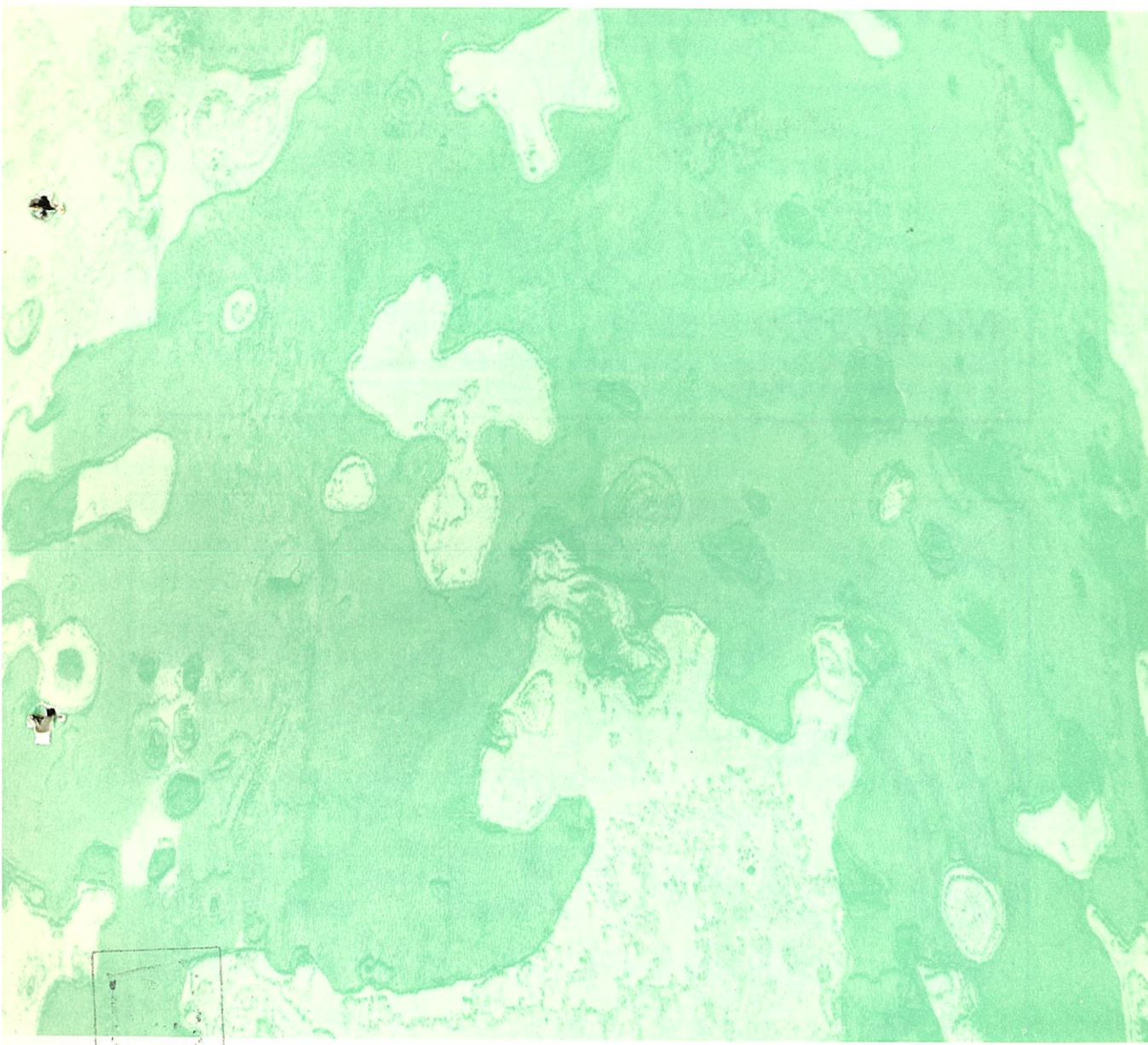


植調

第9巻第3号



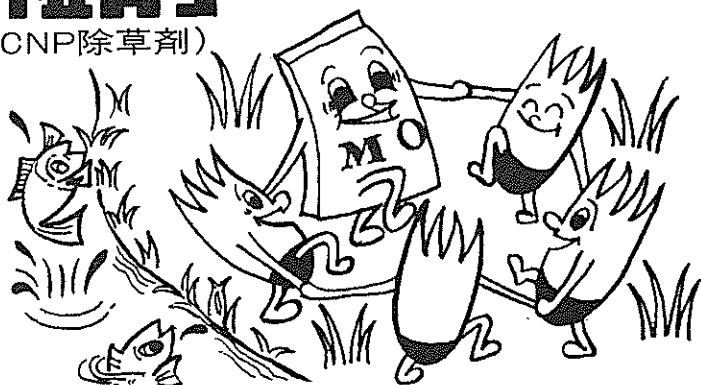
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内



稚苗移植栽培が急速に増加するにつれ、抑草期間が長く、しかも安全な除草剤への要求は、ますます強くなっています。エックスゴーニ粒剤は、これらの要求にピッタリの除草剤です。

田植前後に——

エックスゴーニ粒剤

■頼れる水田除草剤■

代かき後7日以内
にお使いください。

エックスゴーニ協議会



石原産業株式会社
〒550 大阪市西区江戸堀上通1-11-11



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

資料請求券
※ 印刷
エックスゴーニ

薬剤摘果研究開始から30年

わが国で果樹の薬剤摘果の研究が始ってから、約30年になろうとしている。その間、りんご・もも・かき・温州みかんなどで、その技術が普及にうつされたが、残念ながらいずれの場合も程度の相違はあるが、その普及は遅々としているといえる。その原因は、この技術に宿命的ともいえる“効果の不安性”によるものであるが、この点も研究の進展によって、周到な注意のもとに行なえば、かなり安全になったというもの、の何か農家に「食わず嫌い」的に敬遠されている傾向があることもいえない事実である。

摘果は、果樹栽培では種類によってその程度は異なるが「品質の向上」と「隔年結果防止」のためには、必須の作業とされている剪定あるいはそれ以上に重要な作業であり、しかも多労的で農繁期を作る作業であるから、薬剤摘果の導入によるその省力化は、除草剤の利用などとは比べものにならない重要性をもつものである。したがって、今後の農村をとりまく状況を考えると、この技術の重要性はますます増加こそすれ、減ずるものでないといえよう。

ところで、この技術の今後の進め方は、新しい摘果剤の開発や、よりキメの細かい研究によって、より安定した技術とすることの必要性はいうまでもないが、すでに述べたようにこの種の技術にはある程度の不安定性はさけ難いものであるから、指導当局・行政当局によるより「あの手」「この手」による「食わず嫌い」をやめさせることをふくめて「キメの細かい」普及への努力が必要であると思う。

(全国農業協同組合連合会技術参与 森 英男)

目 次

(第9巻第3号)

アメリカの野菜用奨励除草剤(1) …	2
＜野菜試験場育種部長 西貞夫＞	
1. はじめに ……	2
2. アメリカと日本の野菜用除草剤の違い ……	2
3. アメリカの野菜用除草剤 ……	3
・表1. アメリカの野菜用除草剤の使用基準 ……	4
昭和49年度水稻関係除草剤委託試験成績中央判定結果の一部改訂 ……	12
＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞	
1. 審査薬剤 ……	12
2. 審査結果 ……	12
除草剤使用面積一覧表 ……	20
＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞	
新登録除草剤一覧表 ……	25
(昭和50年3月1日～5月31日)	
＜農林省農蚕園芸局植物防疫課＞	
新除草・調節剤	
・ベンタゾン除草剤 ……	31
・2,4 P A・ベンタゾン除草剤 ……	32
・M C P・ベンタゾン除草剤 ……	32
・ベンチオカーブ・シメトリン・ベンタゾン除草剤 ……	34
植調協会だより ……	35

アメリカの野菜用奨励除草剤(1)

農林省野菜試験場育種部長 西 貞夫

1. はじめに

農薬登録についてのきびしい規制と経済界の不況ムードは、除草剤の開発にブレーキをかけているやに聞いているが、野菜用除草剤の日本植物調節剤研究協会委託試験に関する限りは、それほどの減少も認められない。もっとも試験の内容は、新規薬剤の開発にではなく、既登録薬剤の用途拡大に重点が置かれているので、汎用性の獲得に実施の目的が向いていることは、否定できまい。

元来野菜用除草剤の多くは(わが国に関する限り)、水田用除草剤の用途拡大として開発されたものであり、一部は畑作用除草剤の拡大利用という形で進められてきた。開発の当初にあっては、アメリカなどで実用化されている薬剤(その主力は当然畑作用にあるが)の利用が考えられ、その紹介なども行なわれたが、彼我の栽培条件の違いや経営規模の相違などから、直接的な導入の困難であることが明らかとなり、むしろわが国において(水田用にせよ)検討された薬剤を、野菜用としても吟味するという方向に変わってきたといつてよいであろう。

2. アメリカと日本の野菜用除草剤の違い

アメリカと日本との野菜用除草剤についての相違は、いろいろの観点から指摘することができるが、その顕著なものをあげれば、次の様に

いうことができよう。

(1) 経営規模：アメリカにあっても、大都市周辺に近郊園芸的な、小規模集約経営の存在することはいうまでもないが、特長的な野菜栽培は、いうまでもなく一般畑作的規模での大経営である。野菜の種類によって一様ではないが、そこでは、日本的な意味における野菜の集約管理は物理的に不可能事である。利用される機械の規模・性能の違いもさることながら、薬剤散布等の回数は、経営試算の上にたって定められており、わが国の様に予防的の散布が(指導書ではすすめられているにせよ)常に励行されているわけではない。また輪作のひん度・様式も、当然わが国の様に、目まぐるしいものではなく、このことは、利用される除草剤の性格を規定することにある。また同時に除草剤の利用法・評価に対する考え方を、わが国のそれとは異なるものとする。野菜の作物としての性格上、除草剤の処理法は彼我ともに相似たものとなっているが、アメリカにおいて、指導書の冒頭に強調・特記されている事項は、使用薬量の厳守ということである。薬害の回避・効果の確保が目的であることはいうまでもないが、同時にキャリーオーバーによる被害を防ぎ、耕地を守ることが強調されてもいる。しかしその反面、薬害の評価・理解については、わが国の様にきびしい(ある意味では過敏な)ことはない。キ

ャベツの様に比較的収穫期に幅のあるもの（わが国の様にすべてF、品種が用いられているわけではないから）では、‘本剤を使用すると収穫が約1週間おくれるので、その分だけ定植を早めるようにする’といった様な注意が使用法に付記されていたりする。また処理後一時的に葉が黄色味を帯びるなどということが、当然のこの様に注意書きとなっている例もある。この様なことは、実利を重んずる国民性にもよるうが、経営規模のよらしめるところでもある。

(2) 気象条件：世界的に著名なモンスーン地帯に位置し、近年まで欧米の外交官が僻地手当て(?)をもらって赴任したといわれるわが国の気象は、温帯におけるイナ作の成功に必要な水とともに多彩な雑草をもたらした。一度出した天気予報が少なくとも1~2旬は有効であり得る様な、アメリカ大陸とは根本的な違いがある。雑草草種が異なるし、除草剤の残留(効)性も影響されるし、当然適用さるべき薬剤の種類・剤型も左右される。アメリカでは、しばしば処理後の散水が指示されたり、使用上の注意として、‘数日中に降雨が期待できる時に処理する’という様な事項の加えられている例が多い。大規模な経営であるから、液剤散布よりも粒剤利用の方が有利であると思われるが、事実(はく野菜用としても)しばしば液剤の形で処理がすすめられている。これは液剤の方が処理むらが少なく、効果がまさる為と説明されているが、その処理むらの原因は、わが国の様に機械の精度や処理作業そのものにあるのではなく、むしろ土壌水分の不足(降雨の場合もあるし、かんがいの場合もある)に起因しているといつてよい。したがって、薬剤の土壌中での移動性についても、わが国の様に降水による影響がそれほど重視されるわけではない。殺菌・殺虫剤

の散布量や、散布ひん度がしばしば問題となつて、アメリカでの散布量との対比が行なわれ、わが国は小国であるにもかかわらず、アメリカの7倍もの農薬散布が行なわれているなどと告発されている例があるが、彼等の降雨条件の違い(それは、農薬の散布回数之余儀ない増加を求めるが、同時に流亡という農薬を無力化する働きもする)、あるいはわが国が世界に冠たる統計の国であつて、アメリカの場合出荷状況をは握しかねる薬剤についても、すべて集計されている、などという事実が無視されてはならない。降水量(特に春~秋の)の違いは、上にも述べた除草剤の評価とも関係するし、キャリーオーバーの重視ともつながってくる。わが国の様に梅雨期と台風期という、二つの雨期を持つ国では、キャリーオーバーが、年度を越した作付けにまで及ぶことはまずないのに対して、アメリカの場合にはそれが強調され、その意味で使用量の厳守が指摘されてもいるといつてよい。また経営規模の大きいことと、気象条件との相乗的効果が、日米の野菜用除草剤の性格を変えているといつてよい。

3. アメリカの野菜用除草剤

アメリカでの除草剤研究、除草剤使用の状況などについては、すでに本誌をはじめ専門誌にも幾つかの紹介があつた。ごく最近では、本誌の8巻1号(昭和49年5月)に、九州農試の芝山技官による‘米国における奨励除草剤について’と題する記事があり、水田・一般畑作についての使用薬剤名や使用法が表にまとめて紹介されている。同報文には園芸作物についても記述があるが、水田や一般畑作の様に詳細なものではなく、野菜ごとに、処理法別適用薬剤名があげられているに止まっている。すなわち、野

菜 24 作目について、は種前・は種（定植）後・生育期に分けた処理期別薬剤名があげられているので、大略の使用傾向は知りうるのであるが、薬量や使用上の注意についての記述が省略されており、わが国での使用状況と比較するにはやや不足点がある。

アメリカの野菜用除草剤についての情報は、幾つかのルートで知ることができる。例えば、芝山技官も紹介している USDA の印刷物もあるし、毎年版を改めている Meister Dublishing Co. の 'Weed Control Manual & Herbicide Guide' が知られているが、そのほかにも各州立大学が毎年農家向けに出している、いわゆる Production Recommendation（栽培指針とでもいうか）がある。最後の指針はその年ごとの最新の栽培法の紹介であるから、データとしては最も新らしいといえることができるであろう。また農家向けの一般的情報としては、American Vegetable Grower が 2～3 年に一度行なっている特集号での紹介も便利なものの一つといってよい。同誌は毎年一度 Buyers Guide と称して、主要な野菜関係の種苗に始まり、収穫・荷造・輸送にわたる諸生産資材（種子・農薬から、荷造・包装におよぶ）の品名と生産会社の紹介を特集しているが、そのほか栽培指針として、特定事項の特集を行っており、その一つに除草剤が選ばれているのである。その内容は、芝山技官が紹介しておられる作物関係とはほぼ同様の

ものであるが、2～3 年に一度の特集なので、経年的に追っていると、薬剤の変遷や、除草剤利用の主たる対象となる野菜の変遷が知られて、興味深いものがある。

最近の特集は昨 1974 年の 5 月号で行なわれているが、これは上記の 'Weed Control Manual & Herbicide Guide' を再録したものである。以前は各州ごとのデータを組み合わせた資料となっていた場合もあり、作物ごとに相当長い記事となっていることもあったが、今年の資料は作物の数も限られ、2 ページにわたる短いものである。以下にその大略を紹介してみるが、表の中では、単位がエーカー当りポンドとなっているので、これを 11.2g/a に換算して示した。本稿の目的の一つは、アメリカでの使用薬剤の傾向とわが国のそれとの比較にあるので、当初は両者を併記した表の作成を計画したが、その後この資料での作目の学名が、比較的限られていることがわかったので、それをやめ、別に述べるニューヨークでの事例にゆずることとした。本表は野菜をグループ別に表示してある。一つはアブラナ類で、4 作物が Cole crops として、一括されている。2 番目はカラカサバナの類で、主たる野菜はニンジンである。第 3 番目は本来ナス科野菜とされ、トマトが筆頭になるのではないかと考えられたが、ナスとトウガラシ（大部分はピーマンであろう）とがあげられるに止まっている。

表 1 アメリカの野菜用除草剤使用基準

薬 剤 名	薬 量 (成分量) (g/a)	処 理 時 期	対 象 雑 草	備 考
1 ブロッコリー、ブラッセルズブラウト、キャベツ、ハナヤサイ				
Dacthal W-75	50.9～117.6	は種後土壌処理。	メヒシバほかの一年	マックソイルとビート土壌では増

薬 剤 名	薬 量 (g/a) (成 分 量)	処 理 時 期	対 象 雑 草	備 考
(DCPA) (つづき)	(W-75は672 ~1568)		生イネ科雑草, スベ リヒユ, ザクロソウ, ノミノフスマ, アカ ザ。	量のこと。 は種前土壌混和可能。
	509~1126 (W-75は672 ~1568)	定植後土壌処理。		定植直後, 雑草発芽前に処理する こと。
Planavin 4 WDL 又は, 75-WP	56~168 (4WDLを1~3 pt/エーカーか, 75-WPを75~ 224)	(直はんおよび移植 栽培) は種あるいは定植の 6週間前から, 同直 後の間のいつでも可。 通常定植直後全面土 壌処理。	広葉雑草および一年 生イネ科雑草。	処理後2日以内に, 2.5~3.8cm に土壌混和すること。 処理一年以内に, ラベル標示以外 の作物を作付けしないこと。
Prefar 4-E (bensulide)	560~672 (4-Eは5~6 qt/エーカー)	定植前またはは種前 土壌処理。	メヒシバ, スズメノ テッポウ, ヒエ, ア カザ, アオビユ, ス ベリヒユ, オヒシバ, ヌカキビ, アゼガヤ。 広葉雑草については, かんがいを行う準乾 季にのみ有効。	南東部, 南西部, カリフォルニア, アリゾナでのみ使用。 2.5~3.8cmに土壌混和。 かんがいをを行う栽培では, は種床 の土壌処理を行ってから十分か ん水する。 ラベル標示以外の作物は, 18か 月間作付けしないこと。
TOK E-25 (nitrofen)	336~672 (E-25は, 1.5 ~3 gal/ エーカ ー)	は種後土壌処理。	メヒシバ, アカザ, ブタクサ, スベリヒ ユ, ナズナ, ツメク サ。	雑草の発芽前処理が必要, したが って, 処理時に地表の乾湿は問 われないが, 処理後および雑草発 芽前に適湿となるを要する。 土壌混和しないこと。
TOK WP-50 (nitrofen)	336~672 (WP-50は, 134.4~2688) ただしブラッセルス ブラウトは除く。	は種後土壌処理。		
	44.8~672 (WP-50は, 89.6~2688) ただしブラッセルス ブラウトは除く。	活着後全面土壌処理 (雑草発芽初期)ま たはは種2週間後 (直はんの発芽後処 理)		土壌混和しないこと。

薬 剤 名	薬 量 (g/a) (成 分 量)	処 理 時 期	対 象 雑 草	備 考
Treflan 4 EC (trifluralin)	5.6 ~ 11.2 (4 ECは、1 ~ 2 pt) 土壌により加減する が、移植栽培での最 大施用量11.2、直 はん栽培では8.4。	移植栽培：定植前土 壌混和処理。定植 後処理はしないこ と。 直はん栽培：処理量 の限度を守り、は 種後土壌処理をす る。	一年生イネ科雑草と 広葉雑草の多く。	土壌混和処理とする。 かん水処理あるいは降雨をまつ必 要はない。 土中の残留性大。
Treflan 5 G (trifluralin)	5.6 ~ 11.2 (5 Gは11.20 ~ 22.40) 土壌により加減する が、移植栽培での最 大施用量11.2、直 はん栽培は8.4。			
Vegadex 4 EC (CDEC)又は、 Vegadex 20 G (CDEC)	6.7.2 (4 EC 1.5 ガロン/エーカー)を アール当り30ℓの 水で処理又は、6.7.2 (20 Gは33.60)	直はん栽培では発芽 前土壌処理、移植裁 培では定植前土壌処 理。 定植後処理ではかん 水をする。	一年生イネ科雑草と 広葉雑草の多く。	日平均気温が16℃以下の時は低 薬量を用いる。処理後短期の間 に降雨のない時には、12~13 mm以上のスプリンクラーかん水 をする。 粒剤はカリフォルニア州のみに限 られる。
Vegadex(CDEC) + Randox(CDAA)	3.3.6 + 3.3.6	定植後雑草発芽前土 壌処理。	広葉雑草および一年 生イネ科雑草。	(キャベツのみに使用) ウイスコンシン・イリノイ・イン ディアナおよびフロリダの各州 のみで使用。

2 ニンジン、ディル (Dill), パースレー, パースニップ

Chloro - IPC (chlorpropham, CIPC)	6.7.2	は種後土壌処理。	一年生雑草。	ニンジンにのみ使用。アール当り 15 ~ 37.5ℓの水で処理。
Lorox 50W (linuron)	5.6 ~ 16.8 (50Wは、11.2 ~ 33.6) 最大薬量22.4	ニンジンの草たけ、 7.5cm以上になって から発芽後処理とす る。雑草の草たけは、	大部分の一年生イネ 科および広葉雑草。	Stoddard solventにつづい て処理するが、少くとも1日は あけること。 S. s をロックスにつづいて処

薬 剤 名	薬 量 (成 分 量)	処 時 時 期	対 象 雑 草	備 草
(つづき)	ニンジンのみに利用。	一年生イネ科50cm以下。広葉150cm以下とする。他作物の植付けは処理後4か月以後とする。		理する時は、少くとも2週間をあけること。
	75～168 (50Wは、168～336) バースニップのみに利用。	は種後土壌処理。		は種の深さは、少くとも1.5cm以上とすること。 ラベルに標記されたもの以外の作物は、処理後4か月以内には作付けしないこと。
Norex 50 WP (chloroxuron)	336～448 (50WPは、672～896)	有機質含量の多い土壌を避けて、は種後土壌処理。 雑草の発芽後処理： ニンジンの本葉形成後に全面処理、 広葉雑草の草たけ5cm以下の時。	大部分の一年生イネ科雑草および広葉雑草。	テキサス・アリゾナ・コロラド・ワシントン・アイダホの各州では使用しないこと。 は種後土壌処理の場合、十分な降雨の期待できない時は処理後2日以内にかん水すること。 収穫前60日以内に処理しないこと。
Prefar 4 E (bensulide)	560～672	は種前土壌混和処理又は全面土壌処理。	ある種のイネ科雑草および広葉雑草。	テキサス州のみで使用。ラベル表示以外の作物は、処理後18か月は作付けしないこと。
Stoddard solvent	37～56 ℓ/アール	雑草の発芽後処理、 ただし収穫6週間前までとする。	多くの広葉およびイネ科雑草。	ハキダメギク、ブタクサには無効。
TOK E-25 (nitrofen)	224～672 ニンジンのみ	は種後土壌処理、雑草発芽後処理は、作物の発芽2週間以内とする。	メヒシバ、スズメノカタビラ、アカザ、ホオズキ、スベリヒユ、ナズナ、ツメクサ。	は種直後処理1回に限る。処理後土壌表面は、できる限り動かさないこと。 土壌混和しないこと。
	224～672 バースレーのみ			処理時は、地表の乾湿に関係ないが、処理後作物の発芽までに、適湿とする必要あり(かん水など)。 土壌混和しないこと。

薬 剤 名	薬 量 (g/a) (成 分 量)	処 理 時 期	対 象 雑 草	備 考
Treflan 4 EC (trifluralin)	5.6~11.2 (4 ECは、1~2 pt/エーカー) 土壌により加減する こと。	土壌混和処理。	一年生イネ科雑草お よび多くの広葉雑草。	土壌混和すること。 かん水あるいは降雨まちの必要は ない。 土壌中の残留性大。

3 ナ ス

Dacthal W-75 (DCPA)	50.4~117.6 (W-75は、 67.2~156.8)	定植後4~6週間あ るいは直はんした個 体の草だけが、10 ~15cmの頃。	メヒシバ、ほかの一 年生イネ科雑草、ザ クロソウ、アカザ、 などの広葉雑草。	処理前に発芽している雑草は除去 してから処理すること。 マックスソイルおよびビートのほ場 では使用しないこと。
------------------------	--------------------------------------	---	---	--

4 トウガラシ (ピーマンなども含む)

Dacthal W-75 (DCPA)	50.4~117.6 (W-75は、 67.2~156.8)	定植後4~6週間あ るいは直はんした個 体の草だけが、10 ~15cmの頃。	一年生イネ科雑草お よび、スベリヒユ、 アカザなどの広葉雑 草。	砂土では低薬量を用いること。
Dymid 80W (diphenamid)	44.8~58.7 (80Wは、56.0 ~67.2) 土壌により加減する こと。	は種後土壌処理、定 植後土壌処理、ある いは、は種・定植後 1か月以内雑草処理。	一年生イネ科雑草お よび多くの広葉雑草。	定植後全面土壌又は雑草処理可能。 処理後土壌を動かさないこと。 ラベル標示以外の作物を後作に作 付けしないこと。
Enide 50W (diphenamid)	軽い土には、33.6 (50Wは67.2) 重い土には、56.0 (50Wは112.0)			
Ortho Paraquat (2 lb cation per gal.) (paraquat)	5.6~11.2 (O Par.は1~2qt/ エーカー) 植物体散布：アール 当り0.4~0.8ℓ。 地土散布：同1.8~ 5.6ℓ。 展着剤 Ortho X-77 Spreader 加用(約400ℓ当り約 30g)	定植又は、は種前処 理。 雑草の草だけが25 ~15cm程度の時。	一年生のイネ科およ び広葉雑草は枯死さ せ、永年性のものの 生育は抑制する。	は種床は、雑草を発芽させる様に、 予め早目に作っておくこと。 は種時になるべく土壌を動かさな いこと。 は種後処理で、作物を害さない様 にする為、粘土分の少ない、ビ ート・マックスソイル、砂土、人 工培地などへの使用は避けるこ と。

薬 剤 名	薬 量 (g/a) (成 分 量)	処 理 時 期	対 象 雑 草	備 考
Planavin 4 WDL or 75 WP (nitralin)	(ワタ栽培地帯) 5.6～11.2 (4 WDLは、1～ 2 pt/エーカー、 75 WPは7.5～ 15.0 (ワタ栽培地帯以外) 5.6～16.8 (4 WDLは、1～ 3 pt/エーカー、 75 WPは、 7.5～22.4)	移植栽培のみに利用。 定植6週間前に、定 植時あるいは定植直 後全面土壌処理。	多くの広葉雑草およ び大部分のイネ科雑 草。	処理2日以内に2.5～4.0 cm程度 に土壌混和する。 降雨あるいはかん水を考慮する必 要はない。 土壌中の残留性大。 ラベルに標示される以外の作物を 最終処理から1年以内に作付け しないこと。
Prefer 4 E (bensulide)	5.60～6.72 (4 Eは、5～6 qt/エーカー)	定植前又は、は種前 土壌処理。	メヒシバ、スズメノ テッポウ、スベリヒ ユ、アカザ、オヒシ バ、アゼガヤなど、 広葉雑草は準乾地の かんがい地帯のみで 有効。	ビーマンのみで使用。 カリフォルニア・アリゾナ・南東 部・南西部のみで使用。 2.5～5.0 cmに土壌混和する。 かんがい地帯で用い、スプリン クラーなどで十分かん水すること。 ラベル標示以外の作物は、処理後 18か月以内に作付けしないこ と。
Treflan 4 EC (trifluralin)	5.6～11.2 (4 ECは、1～2 pt/エーカー) 土壌により加減する こと。	移植栽培：定植前処 理して土壌混和す ること。	一年生イネ科雑草お よび多くの広葉雑草。	土壌混和すること。 かん水あるいは降雨を考慮する必 要はない。 土壌中の残留性は大きい。
Treflan 5 G (trifluralin)	5.6～11.2 (5 Gは、11.2～ 22.4) 土壌により加減する こと。			
Vegiben Granular (chloramben)	3.36～4.48	定植時処理。	大部分の広葉および イネ科雑草。	軽・砂質土では用いないこと。

(注) 1 略号は次の通り。 EC : emulsifiable concentrate

WP : wettable powder

G : granule

2 薬剤名は、商品名で標示され、()内に薬品名が書かれている。薬量は反対に成分のアール当りグラムで標示され、()内に商品の使用量が原則としてアール当りグラムで示されている。エーカー当りポンドを換算したので、数値の半端なものが多いが、わが国の薬量と比較するには、10アール当りとして端数を切り捨てて差し支えない。

3. Pt (パイント) = 0.47 ℓ, qt (クオート) = 0.94 ℓ

以上の使用基準をみて感ずることは、次の様なことである。第1にこれは一応の基準ではあるが、取りあげられている作目が少ないうえ、除草剤の種類も限られているということである。その原因は、本来アメリカは‘合州国’であって、各州ごとに自治・自律の原則がとられていることにあろう。次項に紹介するニューヨーク州の場合は、もっと多くの作目がとりあげられている。現在幾つかの州が、独自の栽培指針あるいは除草剤についての指針を出しているか、つまびらかでないが、野菜については筆者の知るのみでも、優に10を越している。野菜栽培の重要でない州も多いから、多くても全州の半分を越すことはないであろうが(根拠はないが)、ニューヨーク、ミシガン、ミネソタ、インディアナ、カリフォルニア等では、相当に細かい栽培指針が出されている。したがって、アメリカの様な立地条件を持つ国では(全国を四つの時間帯に区切り、時差をつけている様な国では)、一律の使用基準をもつよりも、各州ごとの基準をもつ方に意味があろうから、ここに示したものは、きわめて大まかな事例紹介に止まるといってよいのであろう。薬剤の種類については、芝山技官の紹介例からみても、やや少なきに失するといってもよいが、全体として汎用性重視の方向よりは、むしろ特殊化という傾向がみられる。この点もニューヨーク州の場合とは、やや異なっているので、多分平均的事例があげ

られているものであろう(それにしても、トウガラシの項が偏重的であり、かつバラコートなどが特記されているかは、やや理解に苦しむ)。大規模経営ということが前提であれば、日本の様な意味での汎用性重視を要しないことはわかるが、nitrofenとDCPA, trifluralinが共通的に用いられている様である。

第2は、前項に述べたとおりの、備考欄での指摘の特異なことである。1年半もの作付け制限(もっとも特定作目についてではあるが)が明記されているが、それはキャリーオーバーの危険性を示すものと理解してよいであろう。また降水やかん水(かんがい)との関係が再三出ている。この点は次に述べるニューヨーク州の場合も同様であるが、小規模経営の場合にはこれほど水の問題が大きくはないであろう。西部の諸州では、かんがい水も商品であるから、薬剤の効力発現のみでなく、経営的にもその要否は大きな意味を持っていることになる。しかし特定作目についてとはいえ、18か月のキャリーオーバーによる影響などというのは、いかにもアメリカ的のといってよい様に思われ、今更の様に彼我の置かれている条件の違いが身にしみる。

第3は土壌混和剤が(同一のものが作目ごとに出るにしても)用いられていることである。表層から5cm以内に、処理2日以内に混和することが求められている。薬剤そのものは、わが

国においてもなじみのものであるから、よいとしても、粒剤に止まらず液剤についても同様の指示がされている。作業の精度そのものは、本来機械作業が人力のそれにまさるといのが、常識なのでよいとしても、経営規模との関係や、降水の影響はどうなるのか、さぞや指針どおり実施することは重労働であろうと、筆者には思われる。また使用薬量は、成分量のポンド／エーカーを11.2グラム／アールに換算してあるので、いささか妙な数字となっている（カッコ

内の数字が実用上の薬量）が、Dacthal の様にきわめて多量ともいえるものから、Treflan の様に処理が困難なのではないかと心配される様なものでさまざまである。この点はニューヨークの場合と同じことであるが、アメリカの場合は、薬価さえ許すのであれば、むしろ大量使用の方が、限度はあるにせよ、作業精度を保つ意味から歓迎されると聞いており、このことは他の殺菌・殺虫剤についても同じ様な事情にあるとのことである。

Weed List in Asian-Pacific Area

- ☆ 雑草名を学名・英名・日本名別に整理したもので、目下編集中であるが、各国に編集依頼のために作成したプリントを実費（800円）で頒布しております。希望者は下記にお申し込み下さい。

植調編集印刷事務所 （東京都港区芝愛宕町1-8第9森ビル全農協内）

移植そ菜畑の除草に

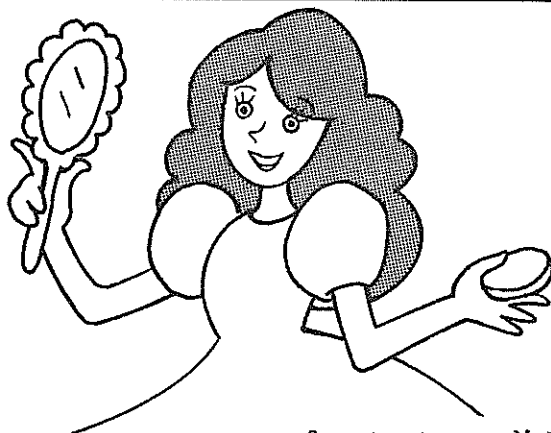
畑の化粧水

プラナビアン

水和剤

特 長

- ◎定植直後の作物に対して薬害のおそれがなく安心して散布処理ができます。



プラナビアン普及会

シェル・北興・三共・サンケイ

昭和49年度水稻関係除草剤 委託試験成績中央判定結果の一部改訂

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度の水稲作関係除草剤委託試験成績結果についての中央判定は同年12月の中央会議において行なわれたが、その判定について9剤の異議申請が提出されていた。昭和50年2月20日に全専門調査員の参集のもとに異議申請事項にもとづき、再審査した結果、次の如く改めることが適当と結論された。

- 4) MCC・MCP粒剤
- 5) モリネートSM粒剤
- 6) モリネートK粒剤
- 7) モリネートKM粒剤
- 8) S-64X粒剤
- 9) MT-B-8015(H)粒剤

1. 審査薬剤

- 1) MC-79粒剤
- 2) CG-102粒剤
- 3) TH-63粒剤

2. 審査結果

中央判定会議において作成された使用基準(A)と、今回改訂された使用基準(B)を各薬剤別に示す。

1) MC-79粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
全域の普通期、 温暖地東部の早期	一年生雑草、 マツバイ	+3～+7 (ノビエ 1Lまで)	⊕ 300g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	

使用基準(B) 【変更事項のみ】

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+3～+8 (ノビエ 1Lまで)			

2) CG-102粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地の普通期	一年生雑草、マツバ イ、ヘラオモダカ	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20 ノビエ 2.5Lまで ヘラオモダカ始～盛(2L) 〔但し、寒地は、 ノビエ2.0Lまで〕	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (3cm/日以下)	・前処理剤と組み 合わせて使用。 ・シメトリン混合 剤と同様の注意を 守る。

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +15～+25 ノビエ 2.5Lまで ヘラオモダカ始～盛(2L) 〔但し、寒地は、 ノビエ2.0Lまで〕			

3) TH-63粒剤

使用基準(A) 成苗移植

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地の普通期、温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ミズ ガヤツリ、ウリカワ、 ヘラオモダカ	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20 ノビエ 2.5Lまで ホタルイ発生盛～5Lまで ミズガヤツリ発生盛 ～4.6Lまで ウリカワ # ～5Lまで ヘラオモダカ発生始 ～2Lまで 〔但し、寒地では、 ノビエ2.0Lまで〕	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合 剤と同様の注意を 守る。

使用基準(B) 〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +15～+25 ノビエ 2.5Lまで			

8) (B)つき

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		ホタルイ発生盛～5Lまで ミズガヤツリ発生盛 ～4.6Lまで ウリカワ # ～5Lまで ヘラオモダカ発生始 ～2Lまで 〔但し、寒地では、 ノビエ20Lまで〕			

4) MCC・MCPB粒剤

昭和49年度判定「継」。昭和46年度使用基準の拡大不可能の判定であったが、昭和46年度試験成績、昭和49年度試験成績について再審査した結果、下記の如く使用基準が作成された。

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地、寒冷地	一年生雑草、 マツバイ	+19～ノビエ2Lまで	⊕ 300g/a	砂壤土～埴土 (2.0cm/日以下)	・有機リン剤、カーバメート系殺虫剤との近接散布をさける。
温暖地の普通期			⊕300～ 400g/a	壤土～埴土 (1.5cm/日以下)	

5) モリネートSM粒剤

① 成苗移植・茎葉兼土壌処理

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
全域の普通期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ	+10～ノビエ3.5L ヘラオモダカ 始～2L ホタルイ 盛～5L ウリカワ 盛～5L ミズガヤツリ 始～4L	⊕ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。
温暖地東部の普通期 早期	同上、ヒルムシロ	ヒルムシロ 増殖初期 3～5L			

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3.5L ヘラオモダカ 始～4L ホタルイ 盛～5L			

5) (B)つづき

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		ウリカワ 盛～6 L ミズギャツリ 始～4 L ヒルムシロ 増殖初期 3～5 L			

② 成苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地	一年生雑草、マツバ イ、ヘラオモダカ、 ホタルイ	田植前後土壌処理した場合。 +20～+25 ノビエ 2.5 Lまで ヘラオモダカ 始～2 L ホタルイ 始～2 L	㊟ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	・シメトリン混合 剤の使用上の注意 を守る。

使用基準(B) [変更事項のみ]

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		田植前後土壌処理した場合。 +20～+25 ノビエ 2.5 Lまで ヘラオモダカ 始～4 L ホタルイ 始～5 L			

③ 稚苗移植

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地～温暖地の普通期、温暖地東部および暖地の早期	一年生雑草、マツバ イ、ウリカワ	+15～ノビエ8.5 L 但し、寒地は2.5 L ウリカワ 盛～5 L ホタルイ 始～2 L	㊟ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	・シメトリン混合 剤の使用上の注意 を守る。
温暖地西部の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ミズ ギャツリ	ミズギャツリ 始～3 L ヘラオモダカ 始～2 L			
寒地	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ、ヘラ オモダカ				

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地～温暖地の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、ホタルイ	+15～ノビエ35L 但し、寒地25L ウリカワ 盛～6L ホタルイ 始～5L ミズギャツリ 始～4L ヘラオモダカ 始～4L			
温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ				
温暖地西部の普通期、暖地の早期	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズギャツリ				
寒地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ				

④ 稚苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地東部の普通早期	一年生雑草、マツバイ	移植前後土壌処理した場合。 +20～+30 (ノビエは35L、但し、寒地は25Lまで)	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	・シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。
寒地～寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	ホタルイ 始～2L ヘラオモダカ 始～2L ウリカワ 始～3L			
寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ				

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒地～温暖地東部の普通期・早期	一年生雑草、マツバイ	移植前後土壌処理した場合。 +20～+30 (ノビエ35L、但し、寒地は25Lまで)			
寒地～寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ	ホタルイ 始～5L ヘラオモダカ 始～4L ウリカワ 始～3L オモダカ 始～4L			
寒冷地	一年生雑草、マツバイ、ウリカワ、オモダカ				

6) モリネートK粒剤

湛水直播

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
温暖地西部以西	一年生雑草, マツバイ	播種後7～15日 イネ 1.5L以後 ノビエ 2.0Lまで コナギ 3.0Lまで	㊥ 300～400 g/a	壇壤土～壇土 (1cm/日以下) 火山灰土壌 (3cm/日以下)	・コナギ多発田では早目に使用する。 ・低温での使用は薬害の危険性があるので、注意する。

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
				壇土～壇土 (1cm/日以下) 火山灰土壌 (3cm/日以下)	

7) モリネートKM粒剤

① 成苗移植・茎葉兼土壌

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズギャツリ, ウリカワ	+10～ノビエ2.5L (+1.5頃) ホタルイ 発生始～盛 ミズギャツリ 始～3L ウリカワ 盛～5L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～壇土 (2cm/日以下)	

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3.0L ホタルイ 始～3L ミズギャツリ 始～3L ウリカワ 盛～5L			

② 稚苗移植・茎葉兼土壌

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地以西の普通期、 温暖地東部の早期	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ	+10～ノビエ3L 但し、寒冷地は2.5Lま で。	㊥ 300～400 g/a	〔温暖地以西の普 通期〕 砂壤土～埴土 (2cm/日以下) 〔寒冷地〕 埴土～埴土 (2cm/日以下)	
温暖地以西の普通期 ・早期	一年生雑草、マツバ イ、ウリカワ、ミズ ガヤツリ	ホタルイ 始～2L ウリカワ 始～4L ミズガヤツリ 始～3L			

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		+10～ノビエ3L 但し、寒冷地は、 2.5Lまで ホタルイ 始～3L ウリカワ 始～4L ミズガヤツリ 始～3L			

③ 稚苗移植・適用時期拡大

使用基準(A)

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
寒冷地	一年生雑草、マツバ イ、ホタルイ	移植前後土壌処理した場 合。 +19～+25 (ノビエ 2.5Lまで) ホタルイ 始～2L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	

使用基準(B)〔変更事項のみ〕

適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
		移植前後土壌処理した場 合。 +19～+25 (ノビエ 3.0Lまで) ホタルイ 始～3L			

8) S-64X

昭和49年度第一次適用性試験判定では、成苗移植・稚苗移植とも混合比を変えて再検討の判定であったが、

成苗移植についてはとくに薬害の危険性もないので、第二次適用性試験（適2試験）に移しても「可」と変更する。

9) MT-B-3015 (H) 粒剤

① 成 苗 移 植

使 用 基 準 (A)

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ	+5～ノビエ1.5 L (+10頃) ホタルイ 始～2 L ウリカワ 始～2 L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	

使 用 基 準 (B) 〔変更事項のみ〕

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ	+1～ノビエ2.0 L ホタルイ 始～2 L ウリカワ 始～2 L			
寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期	一年生雑草, マツバ イ, ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤツリ	ミズガヤツリ 始～2 L			

② 稚 苗 移 植

使 用 基 準 (A)

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
全域の普通期	一年生雑草, マツバ イ, ウリカワ, ホタ ルイ	+5～ノビエ1.5 L ウリカワ 始～2 L ホタルイ 始～2 L	㊥ 300～400 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)	
寒冷地以西の普通期	一年生雑草, マツバ イ, ウリカワ, ホタ ルイ, ミズガヤツリ	ミズガヤツリ 始～2 L			

使 用 基 準 (B) 〔変更事項のみ〕

適 用 地 域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
		+5～ノビエ2.0 L ウリカワ 始～2 L ホタルイ 始～2 L ミズガヤツリ 始～2 L			

除 草 剤 使 用 面 積 一 覧 表

水 田 除 草 剤

(昭和50年3月1日現在、日植調)

区 分	除 草 剤 名		昭 和 4 4 年 度	昭 和 4 5 年 度	昭 和 4 6 年 度	昭 和 4 7 年 度	昭 和 4 8 年 度	昭 和 4 9 年 度
	一 般 名	商 品 名	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
水 稲 生 育 期 処 理	(1) フェノキシ系							
	2,4PA(Na)	2,4-Dソーダ塩	76.0	65.0	125.6	386.0	143.7	116.4
	2,4PA(アミン)	2,4-Dアミン塩	188.6	178.2	146.7	128.0	159.3	233.1
	2,4PA(エステル)水和剤		162.5	125.2	62.0	71.2	53.4	110.6
	2,4PA粒剤	粒状水中2,4-D	232.6	222.2	179.5	174.8	185.5	250.5
	小 計		659.7	590.6	513.8	860.0	541.9	710.6
	MCP(Na)	MCPソーダ塩	48.6	34.0	19.0	19.2	22.6	39.7
	MCP水和剤	水中MCP水和剤	75.5	48.2	43.3	39.6	48.5	63.5
	MCP粒剤	粒状水中MCP	247.7	208.0	188.0	185.2	195.4	260.8
	小 計		371.8	290.2	250.3	244.0	261.5	364.0
水 田 刈 跡 処 理 剤	BPA液剤	ベスコ	7.9	7.6	4.5	7.0	0.7	1.1
	MCPB水和剤	水中MCPB水和剤	0.8	0.4	0.1	0.8	0.1	0.0
	MCPB粒剤	粒状水中MCPB	25.3	20.1	18.6	9.7	10.2	8.1
	MCPCA粒剤	マビカ粒剤				0.7	0.0	0.0
	フェノチオール粒剤	ゼロワン粒剤		0.1	0.2	0	0.1	0.0
	小 計		34.0	28.2	18.4	18.2	11.1	9.2
	(2) そ の 他							
	DCPA乳剤	スタム、デービー乳剤	26.0	18.7	14.4	13.5	32.5	37.9
	DCPA・CHCH乳剤	グラサイド乳剤	11.7	12.1	6.9	7.0	1.0	0.8
	MCC水和剤	スエップ水和剤	7.2	7.3	9.4	15.8	20.8	24.9
水 田 刈 跡 処 理 剤	ACN粒剤	モゲトン粒剤		6.1	4.8	4.7	11.8	18.0
	小 計		44.9	44.2	35.5	41.0	66.1	81.6
水 田 刈 跡 処 理 剤	2,4PA・ATA水溶剤	カリアトール水溶剤	53.8	19.8	6.4	1.6	9.7	23.9
	2,4PA・ATA粒剤	カリアトール粒剤		22.7	16.9	0.0	0.0	0.0
	2,4PA・ATA微粒剤	カリアトール微粒剤				0.5	5.2	0.0
	バラコート液剤	グラモキソン液剤	50.0	127.8	264.2	261.0	154.2	85.3
	小 計		103.8	170.3	287.5	263.1	169.1	109.2
植 代 理 前 後	オキサジアゾン乳剤	ロンスター乳剤				42.2	162.0	191.0

区分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	4 4 年度	4 5 年度	4 6 年度	4 7 年度	4 8 年度	4 9 年度
田 植 後 土 壌 処 理 剤	(1) フェノール系		千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	PCP水溶剤	PCP水溶剤	786	780	500	110	56	225
	PCP粒剤	PCP粒剤	931.8	683.2	224.1	88.7	47.0	17.9
	小 計		1,009.9	767.2	274.1	99.7	52.6	40.4
	PCP・MCP粒剤	バムコン,ベアサイド粒剤	608.3	559.8	441.3	234.5	94.9	56.8
	PCP・MCPB粒剤	マノック粒剤	21.3	13.4	2.8	0.9	3.9	0.0
	PCP・DCBN粒剤	PP水田除草剤	9.0	5.0	13.3	0.4	0.0	0.0
	PCP・MCPE粒剤	バーロックK,バーロックD	3.3	12.0	5.9	1.9	1.9	0.0
	PCP・DBN・MCPB#	エビデン粒剤	39.6	28.5	10.9	4.0	1.5	0.0
	PCP・MCP・DCBN#	トリサイド粒剤			7.3	0.0	0.0	0.0
	小 計		681.5	618.7	481.5	241.7	102.2	56.8
	PCP尿素	PCP尿素	32.7	21.8	5.3	0.0	0.0	0.0
	PCP複合肥料	PCP複合コンビなど	13.3	7.2	4.7	0.0	0.0	0.0
	小 計		46.0	29.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	(2) そ の 他							
	MCP・CA粒剤	マビカ粒剤	34.4	16.7	5.2	0.7	0.0	0.0
	NIP粒剤	ニップ粒剤	394.6	344.1	312.9	235.7	256.2	195.0
	CNP粒剤	MO粒剤	483.2	797.7	1,073.8	1,401.4	1,533.6	1,656.7
	CNP乳剤	NO乳剤		0.5	0.0	0.3	0.3	0.4
	ブロメトリン粒剤	ゲザガード粒剤	51.8	53.1	36.7	27.1	36.6	85.6
	シメトリン粒剤	ギーボン粒剤		15.2	13.7	11.6	8.8	3.5
	DBN水和剤	カソロン水和剤	0.5	0.8	0.4	0.2	0.1	0.6
	DBN粒剤	カソロン粒剤	6.6	17.5	15.7	24.6	18.4	22.0
	DCBN水和剤	プレフィックス水和剤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	DCBN粒剤	プレフィックス粒剤				1.1	0.0	0.0
	TOPE乳剤	アタックウイード乳剤		11.1	1.9	0.2	0.1	
	ベンチオカーブ乳剤	サターン乳剤			9.6	14.7	21.3	30.1
	ブタクロール粒剤	マーシェット粒剤					13.2	126.0
	クロメトキシニル粒剤	エックスゴーニ粒剤					33.1	237.3
	小 計		971.1	1,261.7	1,469.9	1,717.6	1,921.7	2,357.2
	NIP・MCP粒剤	クサカット粒剤		9.9	13.6	26.7	30.5	0.0
	MCP・CNP粒剤	アンモサイド,ハイカット#	127.3	165.3	184.9	141.3	265.0	92.4
	ブロメトリン・MCPB#	ゲザム粒剤	30.0	53.8	48.3	48.1	94.5	40.9
	ACN・MCPB・NIP#	モゲサンド粒剤				15.4	45.7	45.0
	CNP・DBN粒剤	エムロン粒剤	5.9	2.8	1.1	0.0	0.0	0.0
	CNP・クレタジン粒剤	クサキラーグリーン粒剤				0.2	0.0	0.0
	シメトリン・クレタジン粒剤	クサトリート粒剤	1.3	4.5	6.0	4.5	1.4	0.0

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度	昭 和 4 9 年度
	一 般 名	商 品 名						
田 植 後 土 壌 処 理 (つ づ き)	シメトリン・MCPB粒剤	バウナックスM粒剤	千ha	千ha	千ha 1.1	千ha 26.7	千ha 32.7	千ha 38.5
	シメトリン・フェノチオールⅡ	グラキール粒剤			4.7	11.0	14.3	18.1
	MCC・MCP粒剤	クエップM粒剤	128.8	235.2	255.2	244.9	227.0	184.0
	ベンチオカーブ粒剤	サターン粒剤			2.0	7.9	16.8	36.7
	ベンチオカーブ・シメトリンⅡ	サターンS粒剤		270.0	680.5	941.5	1,155.9	1,363.5
	ベンチオカーブ・CNP粒剤	サターンM粒剤			43.2	168.0	230.8	327.9
	トリフルラリン粒剤	トレファノサイド粒剤			16.6	1.0	1.1	2.1
	トリフルラリン・MCPⅡ	トレモリン粒剤		4.9	24.3	32.7	40.8	32.3
	トリフルラリン・MCPANⅡ	エムフラン粒剤			7.1	6.6	3.6	5.7
	モリネート・シメトリン	マメット粒剤				41.4	105.2	213.8
	小 計		293.3	746.4	1,288.6	1,717.9	2,265.8	2,400.9
	BHC・プロメトリン粒剤	ゲザガード・BHC粒剤	3.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	BHC・NIP粒剤	トルニップ, ガンマーニップⅡ	13.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	BHC・MCPCA粒剤	ドルマビカ, マビガジーⅡ	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	BHC・CNP粒剤	ガンマーMO粒剤	9.9	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0
水田	小 計		28.8	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	NIP尿素	尿素ニップ	0.0	1.0	0.8	0.1	0.3	0.0
	NIP複合肥料	尿素化成ニップ	0.0	1.1	1.5	0.1	0.5	0.0
	小 計		0.0	2.1	2.3	0.2	0.8	0.0
合計	合 計		4,244.8	4,559.5	4,681.9	5,245.6	5,554.8	6,320.9

畑 作 用 除 草 剤

区分	除 草 剤 名		昭 和 4 4 年度	昭 和 4 5 年度	昭 和 4 6 年度	昭 和 4 7 年度	昭 和 4 8 年度	昭 和 4 9 年度
	一 般 名	商 品 名						
一 年 生 雑 草 (一 般 畑 作 物)	(1) 雑草処理剤		千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	MCP(Na)水溶剤	MCPソーダ塩	12.2	10.0	1.6	6.8	7.6	7.2
	DNOC水溶剤	DNOCソーダ塩	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	D CPA乳剤	スタム, デービー乳剤	48.2	34.6	28.8	26.8	35.4	13.9
	C MMP乳剤	ダクロン乳剤	1.2	0.1	2.2	4.3	2.9	2.0
	D PA水溶剤	ダウボン水溶剤	3.3	1.9	8.5	10.0	8.1	5.5
	D PA粒剤	ダウボン粒剤		10.7	0.3	0.1	0.0	0.0
	アイオキシニル乳剤	アクトノール乳剤	3.3	7.6	2.1	3.3	5.5	6.9
	DCNP水溶剤	クリノン水溶剤	0.8	1.2	2.9	6.7	3.2	0.0
	2,4 PS水和剤	セス水和剤		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	MDBA液剤	バンベルD液剤		0.2	0.1	0.0	0.0	0.4
	キサントゲン酸塩	デシコーン		3.7	6.8	7.0	8.8	0.3

区分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	4 4 年度	4 5 年度	4 6 年度	4 7 年度	4 8 年度	4 9 年度
一 年	CMPT水和剤	セレクト水和剤	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha	千ha
	クレタジン水和剤	クサキラー水和剤			0.1	0.3	0.0	0.3
雄 草	フェンメディウム乳剤	ベタナール乳剤			13.4	13.0	20.1	27.5
	小 計		69.8	71.2	70.8	82.6	94.1	68.1
生 物	(2) 土壌処理剤							
	PCP水溶剤	PCP水溶剤	91.7	93.1	103.7	98.8	76.8	42.1
草	PCP粒剤	PCP粒剤			0.5	2.2	1.2	4.4
	DNBP液剤	ブリマージ	19.4	25.3	32.8	38.6	65.2	81.8
(一 般 畑 作 物)	DNBPA水和剤	アレチット	5.4	8.7	11.0	12.4	11.1	13.1
	DCMU水和剤	カーメックス、ダイロン	49.8	65.4	159.4	84.0	128.9	114.3
(つ づ き)	リニエロン水和剤	アファロン、ロロックス	27.9	23.3	52.4	53.0	104.7	125.1
	CAT水和剤	シマジン水和剤	264.7	291.8	466.9	552.0	554.7	620.1
	CAT粒剤	シマジン粒剤	44.9	63.2	63.4	42.2	90.4	234.0
	アトラジン水和剤	ゲザプリム50	12.5	24.5	27.3	33.0	27.8	37.9
	プロバジン水和剤	ゲザミル水和剤	7.8	8.5	6.7	6.0	6.0	7.4
	プロメトリン水和剤	ゲザガード50	8.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5
	ジフェナミド水和剤	ダイミッド水和剤	1.1	1.4	6.1	4.0	3.1	3.3
	NPA液剤	アラナップ液剤	1.2	0.7	0.1	0.6	0.4	0.3
	PAC・BIPC水和剤	アリセップ水和剤	2.8	5.4	4.8	5.4	11.6	4.6
	レナシル水和剤	レンザー	4.9	11.7	13.6	21.0	7.5	16.4
	IPC乳剤	クロロIPC乳剤	75.6	60.4	81.2	94.0	43.1	50.1
	NIP乳剤	ニップ乳剤	17.8	21.1	20.1	21.4	12.7	13.8
	CNP乳剤	MO乳剤		0.5	0.0	0.1	0.5	0.5
	トリフルラリン乳剤	トレファノサイド乳剤	15.5	19.4	29.9	37.3	28.5	46.6
	トリフルラリン粒剤	トレファノサイド粒剤				25.0	26.7	40.7
	アメトリン水和剤	ゲザバックス50	33.5	95.5	0.0	9.0	9.8	10.3
	DBN粒剤	カソロン粒剤	16.2	0.0	0.0	2.4	4.6	15.4
	クロロクソロン水和剤	ティノーラン		0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
	EPTC乳剤	エプタム乳剤		0.3	0.9	0.4	0.4	0.5
	EPTC粒剤	エプタム粒剤		0.9	0.9	1.3	1.9	2.6
	バーナレート粒剤	バーナム粒剤		4.3	1.7	1.1	1.2	0.9
	SAP・プロメトリン乳剤	エス乳剤	1.9	2.3	3.3	4.8	2.7	3.6
	アラクロール乳剤	ラッソー乳剤				2.0	5.2	6.4
	MCC粒剤	粒状スエップ	4.8	4.9	7.5	8.4	3.6	2.7
	IPC・DCMU水和剤	バービスアン水和剤	2.1	0.1	0.0	1.0	1.2	2.7
	IPC・リニエロン水和剤	セルビーン		6.3	5.4	0.7	0.2	2.2
	レシナル・PAC水和剤	レナバック水和剤		3.6	6.1	10.0	14.3	15.2
	クレタジン水和剤	クサキラー			0.1	0.3	0.2	0.3
	ニトラリン水和剤	ブラナビアン水和剤					1.6	3.9
	小 計		709.8	843.7	1,105.9	1,192.4	1,257.8	1,571.2

区分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	4 4 年度	4 5 年度	4 6 年度	4 7 年度	4 8 年度	4 9 年度
多 年 生 雑 草 ・ 休 閑 地 ・ 樹 園 地 ・ 林 地 等 対 象	ATA水和剤	ウイダゾール水和剤	千ha 5.4	千ha 5.2	千ha 6.8	千ha 7.3	千ha 3.3	千ha 0.0
	ATA粒剤	ウイダゾール粒剤			1.2	0.0	0.0	0.0
	DPA粒剤	ダウボン粒剤				0.2	0.1	0.3
	DPA微粒剤	ダウボン微粒剤				0.3	0.1	0.1
	プロマシル水和剤	ハイバーX水和剤	20.2	26.2	28.9	38.8	49.8	48.5
	プロマシル粒剤	ハイバーX				0.4	1.5	2.1
	アメトリン乳剤	ゲザバック乳剤25			12.3	14.2	14.6	2.1
	ジクワット乳剤	レグロックス	37.9	49.7	51.1	64.3	71.4	106.4
	バラコート液剤	グラモキソン液剤	289.2	400.0	344.2	522.3	788.3	1,141.4
	シデュロン水和剤	デュバサン		5.8	1.6	2.2	6.0	6.1
	MBPMC・MCP水和剤	エーザック水和剤				2.0	2.5	6.7
	シアン酸塩水溶剤	シアノン他	6.2	5.3	7.0	11.4	6.9	6.2
	シアン酸塩・DCMU#	ゼットシアン他	6.1	7.1	3.3	9.2	6.5	0.3
	DCPA・NAC乳剤	ワイダック乳剤	11.4	17.4	25.4	17.7	13.6	20.7
	DCPA・XMC乳剤	クサカール乳剤				1.0	0.7	0.6
	ATA・DCMU水和剤	ボミカル、アブレックス#	5.5	9.3	19.5	5.3	4.9	3.7
	ATA・アトラジン水和剤	ドマトール	1.0	0.9	1.2	1.6	1.7	2.6
	PCP・DCMU粒剤	クワロン粒剤		6.4	4.0	2.4	0.1	1.7
	DCPA・MTMC乳剤	ロンリーフ乳剤						0.3
	シンバー・DCMU水和剤	ゾーバー水和剤						1.3
	小 計		382.9	533.3	506.5	700.6	972.0	1,351.1
	塩素酸塩水溶剤	クロレートソーダ他	158.5	129.5	78.4	79.8	104.4	84.0
	塩素酸塩粉剤	デゾレート粉剤他	39.9	31.3	27.8	9.7	12.5	10.6
	塩素酸塩粒剤	デゾレート粒剤他	67.3	64.7	31.1	14.9	19.6	64.9
	塩素酸塩液剤	クロシウム		11.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	スルファミン酸塩水溶剤	イクリン水溶剤他	1.3	1.2	0.9	0.5	0.3	0.1
	スルファミン酸塩粉剤	スルカット粉剤他			1.1	0.0	0.2	0.2
	MCP・スルファミン酸塩	ヤマグリーンA						0.1
	TCBA	トリバック		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	PCP・2,4,5-TTP	ウイーデスト		3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	2,4PA・2,4,5-TTP乳剤	ブッシュロン乳剤		2.7	1.3	0.0	0.0	0.0
	2,4PA・2,4,5-TTP粒剤	ブッシュロン粒剤		14.3	0.0	0.0	0.0	0.4
	2,4,5-T粒剤	ウイードン		0.4	0.2	0.0	0.0	0.0
	塩素酸塩・弗化ナトリウム	クロレートFE		1.2	0.4	0.3	0.4	0.3
	[2,4,5-T・スルファミン酸・硫酸アンモニウム]	[ブラッシュバン, イクリンエイト]		0.1	0.4	0.0	0.0	0.2
	テトラビオン液剤	フレノック液剤		0.2	0.4	0.1	0.1	0.1
	テトラビオン粒剤	フレノック粒剤		0.4	0.8	2.1	1.6	4.3
	TCTP水和剤	ダクタル水和剤			2.5	2.6	3.3	3.5
	MCP液剤	MCP液剤				4.3	3.5	3.0

区分	除 草 剤 名		昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和	昭 和
	一 般 名	商 品 名	4 4 年度	4 5 年度	4 6 年度	4 7 年度	4 8 年度	4 9 年度
(つづき)	ベスロジン乳剤	バナフィン乳剤	千ha	千ha	千ha	千ha 0.1	千ha 0.5	千ha 0.5
	アシュラム液剤	アーグラン液剤				5.8	14.1	8.3
	ピクロラム	ケイビン				0.9	3.3	4.8
	DSMA・MCPP粉剤	DSCP粉剤			0.4	0.2	0.2	0.2
	DSMA・MCPP液剤	DSCP液剤			0.2	0.5	0.5	1.0
	小 計		267.5	260.7	145.9	121.8	164.5	186.6
畑作	合 計		1,430.0	1,708.9	1,829.1	2,097.4	2,488.4	3,177.0
総 合 計			5,674.8	6,268.4	6,461.0	7,343.0	8,042.7	9,497.9

(財団法人 日本植物調節剤研究協会試算)

- 注) ① この統計表の算出にあたっては、各メーカーより報告された出荷数量を基とした。
 ② 使用面積の算出にあたっては、10a当り使用量の平均値を用いて換算した。
 ③ 昭和44、46、47、48、年度の数値については、換算率に誤りがあったので一部訂正した。

新 登 録 除 草 剤 一 覧 表

農林省農蚕園芸局植物防疫課

昭和50年3月1日～5月31日

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 物 種 (場所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
オキサジ アゾン複 合肥料	ロンスタ ー複合肥 料85	5-タージャリ -ブチル-3 -(2,4-ジ クロル-5- イソプロポキ シフェニル) -1,3,4-オ キサジアゾリ ン-2-オン 0.35% 磷酸アンモニウ ム、塩化加里 (アンモニア 性窒素12.0 %, 可溶性磷 酸15%, 水	粒 剤	水 稲 (普通移 植栽培)	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ	全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 ～埴土 (極端な 漏水田 を除く)	植代時 (田植前 1～3日)	20～ 30kg (暖地) 30～ 40 (寒地)	湛水散布 土壌混和 処理、荒 代かき後 水深3～ 5cmに湛 水したの ち、均一 に散布し、 植代かき で土壌表 層2～3 cmの深さ に混和す る。	日産化 学工業

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 物 種 (場 所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量 (10 a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)		溶性加里15 (%)									
オキサジ アゾン複 合肥料	ロンスタ ー複合肥 料18	5-ターシャリ -ブチル-3 -(2,4-ジ クロル-5- イソプロポキ シフェニル) -1,3,4-オ キサジアゾリ ン-2-オン 0.18% 磷酸アンモニウ ム, 塩化加里 (アンモニア 性窒素12.0 %, 可溶性磷 酸15%, 水 溶性加里15 %)	粒 剤	水 稲 (普通移 植栽培)	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ	関東以 西の普 通期栽 培地帯	砂壤土 ~塩土 (極端な 漏水田 を除く)	植代時 (田植前 1~3日)	40~ 50Kg	湛水散布 土壌混和 処理, 荒 代かき後 深水3~ 5cmに湛 水した後 均一に散 布し植代 かきで土 壌表層2 ~3cmの 深さに混 和する。	日産化 学工業
ベントゾ ン除草剤	バサグラ ン粒剤	3-イソプロピ ル-2,1,3- ベンゾチア ジアジノン-(4) -2,2-ジオ キシド 10%	粒 剤	水 稲 (普通移 植栽培)	水田一 年生広 葉雑草, ホタル イ, ウ リカワ, ミズガ ヤツリ, ヘラオ モダカ ウリカ ワ, ミ ズガヤ ツリ	全域の 普通期 栽培地 帯 関東東 山の早 期栽培 地帯	砂壤土 ~塩土 [減水深 1.5cm/ 日以下]	雑草の 発生盛 期~発 生揃期 (移植後 15~ 30日) 雑草の 発生揃 期 (移植後 10~ 20日)	4~ 6Kg	浅く湛水 して散布 (茎葉兼土 壌処理)	住友化 学工業 クミアイ 化学工業 サンケ イ化学 北興化 学工業 八洲化 学工業 三 共 日本農薬
ベントゾ ン除草剤	バサグラ ン水和剤	3-イソプロピ ル-2,1,3- ベンゾチア ジアジノン-(4) -2,2-ジオ	水和剤	水 稲 (普通移 植栽培)	ミズガ ヤツリ, ホタル イ, ウ リカワ	全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 ~塩土 [減水深 1.5cm/ 日以下]	雑草の 発生盛 期~発 生揃期	800~ 1200g (70~ 100g)	散 布 (茎葉兼土 壌処理)	住友化 学工業 クミアイ 化学工業 サンケイ化学

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 作 物 (場 所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)		キシド 50%						移植後 15～ 30日			北興化 学工業 八洲化 学工業 三 共 日本農薬
				水 稲 (乾田 直播)	ミズガ ヤツリ	関東北 陸以西 (九州, 南四国 を除く)		入水後 雑草の 4～6 葉期	600～ 1200g (70～ 100L)	散布(茎 葉処理)	
ベンチオ カーブ・ ペンタゾ ン除草剤	サタグラ ン粒剤	S-(4-クロ ルベンジル) -N,N-ジエ チルチオカー バメート 10% 3-イソプロピ ル-2,1,3- ベンゾチアジ アノン-(4)- 2,2ジオキシ ド 10%	粒 剤	普通移 植水続	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ, ミ ズガヤ ツリ, ウリカ ワ	北海道 を除く 全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 ～埴土 (減水深 1.5cm/ 日以下)	移植後 6～ 10日 ノビエ の1.5 葉期ま で	3～ 4Kg	浅く湛水 して散布 (茎葉兼土 壌処理)	クミアイ 化学工業
				稚苗移 植水稲	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ			移植後 6～ 10日 (東北, 北陸は 8～ 10日) ノビエ の1.5 葉期ま で			
					ホタルイ	東北, 北陸の 普通期 栽培地 帯					
					ウリカワ	九州, 南四国 などの 暖地の 普通期 栽培地 帯					

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 物 (場 所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使 用 時 期	使用量 (10 a 当り)	使用方法	登録会社
ベンチオ カーブ・ シメトリ ン・ベン タゾン除 草剤	エスグラ ン粒剤	S-(4-クロ ルベンジル) -N,N-ジエ チルチオカー バメート 7.0% S-メチルチオ -4,6-ビス (エチルアミ ノ)-S-トリ アジン 1.5% 3-イソプロピ ル-2,1,3- ベンゾチアジ アジノン(4) -2,2-ジオ キシド 7.0%	粒 剤	普通移 植水稻	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ, ウ リカワ, ホタル イ, ミ ズガヤ ツリ	全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 ～埴土 [減水深 2 cm/ 日以下]	移植後 7～15 日, ノ ビエの 2.5 葉 期(寒 地では 2 葉期, 暖地で は3 葉 期)ま で	3 ～ 4 Kg	浅く湛水 して散布 (茎葉兼土 壌処理)	クミアイ 化学工業
					ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ, ミ ズガヤ ツリ	関東, 東山地 域の早 期栽培 地帯					
				稚苗移 植水稻	ノビエ その他 水田一 年生雑 草及び マツバ イ, ウ リカワ, ホタル イ, ミ ズガヤ ツリ	九州, 南四国 並びに 北海道 を除く 地域の 普通期 栽培地 帯及び 関東, 東山地 域の早 期栽培 地帯	埴土～ 埴土 [減水深 2 cm/ 日以下]				
2,4 PA ・ベンタ ゾン除草 剤	グラスジ ンD粒剤	2,4-ジクロル フェノキシ酢 酸エチル 1.5% 3-イソプロピ ル-2,1,3- ベンゾチア	粒 剤	水 稲	水田一 年生広 葉雑草 ホタル イ, ウ リカワ, ミズガ	関東以 西の普 通期裁 培地帯	砂壤土 ～埴土 [減水深 1.5 cm/ 日以下]	有効分 けつ終 止期～ 幼穂形 成期前	3 ～ 4 Kg	湛水散布 浅く湛水 して本剤 を手また は散粒機 で均一に 散布する。	日産化 学工業 石原産業

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 物 所 (場 所)	適 用 雄 草	適 用 地 帯	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
(つづき)		シアジノンー (4)ー2,2ージ オキサイド 10%			ヤツリ						
2,4 P A ・ベンタ ゾン除草 剤	グラスジ ンD水和 剤	2,4ージクロル フェノキシ酢 酸エチル 4.5% 3ーイソプロピ ルー2,1,3ー ベンゾーチア シアジノンー(4) ー2,2ージ オキサイド 30%	水和剤	水 稲	水田一 年生広 葉雑草 ホタル イ, ウ リカワ, ミズガ ヤツリ	関東以 西の普 通期裁 培地帯	砂壤土 ～埴土	有効分 けつ終 止期～ 幼穂形 成期前	700～ 1000g (70～ 100L)	落水散布 散布前日 に落水散 布する。	日産化 学工業 石原産業
M C P ・ ベンタゾ ン除草剤	グラスジ ンM	2ーメチルー4 ークロルフェ ノキシ酢酸エ チル 1.5% 3ーイソプロピ ルー2,1,3ー ベンゾーチア シアジノンー (4)ー2,2ージ オキサイド 10%	粒 剤	水 稲	水田一 年生広 葉雑草 ホタル イ, ウ リカワ, ヘラオ モダカ, ミズガ ヤツリ	北海道 を除く 全域の 普通期 栽培地 帯 北海道	砂壤土 ～埴土 〔減水深 1.5cm/ 日以下〕	有効分 けつ終 止期～ 幼穂形 成期前 幼穂形 成始期	3 ～ 4 Kg	湛水散布 浅く湛水 して本剤 を手また は散粒機 で均一に 散布する。	日産化 学工業 石原産業
M C P ・ ベンタゾ ン除草剤	グラスジ ンM	2ーメチルー4 ークロルフェ ノキシ酢酸エ チル 4.5% 3ーイソプロピ ルー2,1,3ー ベンゾーチア シアジノンー(4) ー2,2ージ オキサイド 30%	水和剤	水 稲	水田一 年生広 葉雑草 ホタル イ, ウ リカワ, ヘラオ モダカ, ミズガ ヤツリ	西南暖 地を除く 全域の普 通期栽培 地帯(北 海道を 除く) 北海道	砂壤土 ～埴土 〔減水深 1.5cm/ 日以下〕	有効分 けつ終 止期～ 幼穂形 成期前 幼穂形 成始期	700～ 1000g (70～ 100L)	落水散布 散布前日 に落水し て散布す る。 湛水散布 浅く湛水 して散布 する。	日産化 学工業 石原産業

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 作 物 (場 所)	適 用 雑 草	適 用 地 帯	適 用 土 壤	使 用 時 期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
オルソベ ンカーブ 除草剤	ランレイ 乳 剤	S-(2-クロ ルベンジル) -NN-ジエ チルチオカー バメート 50%	乳 剤	芝 (高麗芝、 野芝)	メヒシ バ、ス ズメノ テッポ ウ、ス ズメノ カタビ ラ等禾 本科一 年生雑 草		全土壌	雑 草 発生前	1200 cc~ 1500 cc (300L)	全面散布 (土壌処理)	理研薬販

新除草・調節剤の欄について

この欄では、新たに農薬登録された除草剤・生育調節剤については、すべて紹介いたしたいと思っておりましたが、委託者が発売する意思のない薬剤については委託者の意思により掲載いたしておりませんので、何とぞご了承下さい。

多くの作物に安心して使える除草剤

トレファノサイド[®]乳剤・粒剤2.5

- 1年生イネ科雑草に著効を示します

イネ科・広葉の多年生雑草に効果の高い

アージラン^{*}液剤

- きわめて安全な除草剤です

シオノギ製薬

®イーライリリー社登録商標

*メイ・アンド・ベーカー社登録商標

新除草・調節剤

バサグラン粒剤・水和剤 ペンタゾン除草剤

(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社
サンケイ化学株式会社
北興化学工業株式会社
八洲化学工業株式会社
三共株式会社
日本農薬株式会社
(バサグラン研究会事務局) 住友化学工業株式会社
(原体輸入元) BASFジャパン株式会社

対象作物：水稻（普通移植栽培・乾田直播栽培……水和剤のみ）

性状・作用特性：本剤は、3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジアジノン-（4）-2,2-ジオキシド（一般名：ペンタゾン）を有効成分とする除草剤で、粒剤は有効成分を10%含む灰白色細粒、水和剤は有効成分を50%含

む灰白色水和性粉末である。本剤の大きな特長を二つあげると、一つはミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカなどの多年生雑草に生育期（発生盛期～増殖始期）の使用ですぐれた除草効果を示すこと、他の一つは稲に安全なので、稲に対する薬害を必配せずに雑草の発生状態をみて、いつでも使用できることである。本剤は、根部・茎葉部のいずれからもよく植物体内に吸収され、主に光合成阻害作用により雑草を枯殺する。また、イネ科植物体内ですみやかに不活性化されるので、稲と多年生雑草の間で優れた選択性を示す。しかし、水への溶解度が大きく、水の移動に伴う流亡の可能性があり、水もちの悪い水田（減水深1.5cm/日以上）では水和剤の方が安定した効果を示す。

毒性：本剤の人畜および魚貝類に対する毒性はともに低く、普通物・A類である。急性経口毒性はラットに対するLD₅₀ (mg/Kg)で1,100、マウスに対するLD₅₀ (mg/Kg)で1,130～

新発売

水田多年生雑草防除に

バサグラン^{*}粒剤 水和剤

特長

- 水田多年生雑草にすばらしい効果を示す。
- 散布適期の幅が広く、生育期（発生盛期～増殖初期）散布での効果が高い。
- 稲にも、人畜・魚貝類にも非常に安全性が高い。

適用雑草 ミズガヤツリ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・水田一年生広葉雑草

効きめと安全の信頼にこたえる



東京都千代田区丸の内1-3-2

^{*}は西ドイツBASF社の登録です。

新除草・調節剤

1,320,急性経皮毒性はラットに対するLD₅₀(mg/Kg)で2,500以上である。魚貝類に対しては,48時間コイトLM=100ppm以上,48時間ドジョウTLM=100ppm以上,3時間ミジンコTLM=100ppm以上である。

使用方法:〔粒剤〕水の出入をとめ,浅く湛水(雑草が水面上にでる状態)して,10アールあたり4~6Kg(製品)均一に散布する。〔水和剤〕落水または浅く湛水(雑草が水面上に出る状態)して,10アールあたり800~1,200g(製品)(乾田直播栽培では600~1,200g)を70~100ℓの水に希釈し,均一に散布する。

使用上の注意:①散布後少なくとも3~4日間はそのままの状態を保ち,かけ流しはしない。なお,深水にすると効果の劣ることがあるので注意する。②砂質土および漏水のはげしい水田では使用しない。③1年生のイネ科雑草には効果が劣るので,田植前後の土壌処理除草剤で1年生雑草を防除した後,多年生水田雑草および1年生の広葉雑草の防除を目的として使用する。④雑草の生育段階によって効果にふれがあるので,必ず適期に散布するように注意する。⑤本剤の使用にあたっては,使用量・使用時期・使用方法等を誤らないように注意し,特に初めて使用する場合には農業技術者の指導を受けることが望ましい。

グラスジンD粒剤・水和剤 2,4PA・ベンタゾン除草剤

グラスジンM粒剤・水和剤 MCP・ベンタゾン除草剤

(取扱メーカー) 石 原産業株式会社
日産化学工業株式会社

対象作物:普通移植水稻・稚苗移植水稻

性状・作用特性:本剤は,3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジアジノン-(4)-2,2-ジオキシド〔ベンタゾン〕10%(粒剤)30%(水和剤)と2,4-ジクロルフェノキシ酢酸エチル〔2,4PA〕1.5%(粒剤)4.5%(水和剤)2-メチル-4-クロルフェノキシ酢酸エチル〔MCP〕1.5%(粒剤)4.5%(水和剤)を有効成分とする茎葉・土壌処理除草剤である。ベンタゾンは,雑草の根および茎葉から吸収し,植物体内を移行し,ヒル反応阻害作用などによって殺草効果を発揮するが,作用はやゝ遅効性である。2,4PAやMCPは雑草に接触吸収移行し,細胞の異常分裂,呼吸作用が旺盛になるなど,生理作用の異常によって殺草効果を発揮する。いずれも植物体内を速やかに移行し,枯殺作用が発現するため,再発生は極めて少ない。また,高温時,日光によく当たる条件下で作用が強く発現し,多年生雑草に対しては両剤の相乗効果により少量で抜群の効果を発揮する。

毒性:人畜に対する急性経口毒性は,ラットに対するLD₅₀(mg/Kg)で,ベンタゾン…850,2,4PA…670,MCP…1,100である。魚毒性は,48時間コイトLMは,ベンタゾン…100ppm以上,2,4PA…1.0ppm,MCP…14ppmである。

使用方法:〔粒剤〕1~2cmに湛水後,3~4Kg(製品10アール当り)を均一に散布し,散布後4~5日間は深水にしない。〔水和剤〕散布前に落水し,製品1,000~1,330g(製品10アール当り)を70~100ℓの水に溶かし,噴霧器で雑草の茎葉全体によく付着するように散布し,散布後1~2日間は湛水しないこと。

新除草・調節剤

使用上の注意：①前処理剤（初期または中期除草剤）と体系処理をすること。（体系処理の場合の散布適期は暖地普通期で＋20～＋25日，寒冷地早植で＋30～＋40日である。）②粒剤は浅水（1～2cm）で処理し，処理後もしば

らくは浅水をつづけること。水和剤は前日に落水し，処理後1～2日間は湛水しないこと。③粒剤は漏水田では使用しないこと。④晴天の日を選んで処理すると効果がある。

ベンタゾン・2,4PA除草剤

（グラスジンD水和剤・粒剤）

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	10アール当り散布液量	使用方法	適用地帯
水 稲	水田一年生 広葉雑草， ホタルイ， ウリカワ， ミズガヤツリ	有効分けつ終 止期～幼穂形 成期前	砂壤土～埴土	㍑ 700～1,000	㍓ 70～100	〔落水散布〕 散布前日に落水 し散布する。	関東以西の普通 期栽培地帯
	同 上	同 上	同 上 〔減水深 1.5cm/日以下〕	3～4Kg	—	〔湛水散布〕 浅く湛水して本 剤を手又は散粒 機で均一に散布 する。	

ベンタゾン・MCP除草剤

（グラスジンM水和剤・粒剤）

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	10アール当り散布液量	使用方法	適用地帯
水 稲	水田一年生 広葉雑草， ホタルイ， ウリカワ， ヘラオモダカ， ミズガヤツリ	有効分けつ終 止期～幼穂形 成期前	砂壤土～埴土	㍑ 700～1,000	㍓ 70～100	〔落水散布〕 散布前日に落水 して散布する。	西南暖地を除く 全域の普通期裁 培地帯（北海道 を除く）
		幼穂形成始期	砂壤土～埴土 （減水深 1.5cm/日以下）			〔湛水散布〕 浅く湛水して散 布する。	北 海 道
	同 上	同 上	砂壤土～埴土 （減水深 1.5cm/日以下）	3～4Kg		〔湛水散布〕 浅く湛水して本 剤を手または散 粒機で均一に散 布する。	北海道を除く全 域の普通期栽培 地帯
		同 上					北 海 道

新除草・調節剤

エスグラン粒剤

ベンチオカーブ・シメトリン・ ペンタゾン除草剤

(取扱メーカー) クミアイ化学工業株式会社

対象作物：水稻(普通移植・稚苗移植)

成分・作用特性：本剤は、S-(4-クロロベンジル)N,N-ジエチルチオールカーバメイト〔ベンチオカーブ〕7%, 2-メチルチオール4,6-ビス(エチルアミノ)-S-トリアジン〔シメトリン〕1.5%, 3-イソプロピル-2,1,3-ベンゾチアジアジノン-4,2,2-ジオキソド〔ペンタゾン〕7%を有効成分とする粒剤である。作用特性は、ノビエ・カヤツリグサ科などに卓効を示すベンチオカーブと、広葉雑草に高い効果のあるシメトリンを配合した従来の除草剤(サターンS)にペンタゾンを配合したもので、作用性の異なる3成分の相乗作用によって、ノビエの2.5葉期までに枯らし、カヤツリグサ・コナギなどの1年生雑草から、ウリカワ・ミズガヤツリ・ホタルイ・オモダカ・ヘラオ

モダカなどの多年生雑草に対しても高い効果を示し、水田雑草のほとんどを一挙に防除できる。また残効性も長く、処理適期幅も広い。

毒性：急性経口毒性は、ラットに対しLD₅₀(mg/Kg)で、ベンチオカーブ…1,300, シメトリン…750, ペンタゾン…850と低く普通物である。魚毒性は、コイで48時間TLm(ppm)で、ベンチオカーブ…3.4, シメトリン…2.6, ペンタゾン…100でB類である。

使用法：①使用時期…本剤は1年生雑草(発生前～ノビエ2.5葉期)と多年生雑草(発生盛期～4葉期)の両方に効果があるので、防除の主対象となる雑草のステージに合わせる。②水深と薬量…2cm程度の湛水状態で、10a当り3～4kg均一に散布する。

使用上の注意：①水稻に対する薬害は、軟弱苗、活着不良、漏水田、異常高温の場合発生するので注意する。②処理後3～4日間は2cm位の湛水状態を保ち、落水・かけ流しはしない。③多年生雑草を防除の対象とする場合は、適期に散布する。

作物名	適用雑草名	処理時期	適用土壌	10アール当り 使用量	使用方法	適用地帯
移植 水稻	ノビエなどの水田一年生雑草、およびマツバイ	田植後7日～ノビエ2.5葉期 〔寒地は2葉期 暖地は3葉期迄〕	砂壤土～埴土 〔減水深2cm／ 日以下〕	3～4Kg	湛水均一散布 (土壌兼茎葉処理)	全国の普通期および温暖地東部の早期栽培
	ミズガヤツリ	発生盛期～4葉期				全国の普通期
	ホタルイ、ウリカワ					
稚苗・機械移植	ノビエなどの水田一年生雑草およびマツバイ	田植後8日～ノビエ2.5葉期	埴土～埴土 〔減水深2cm／ 日以下〕	3～4Kg	同上	寒冷地～温暖地の普通期および温暖地東部の早期栽培
	ミズガヤツリ、ホタルイ、ウリカワ	発生盛期～4葉期				

植調協会だより

◎第29回役員会要旨

昭和50年5月12日、農林年金会館において開催し、次の議題に基き審議の上可決された。

議 題

1. 役員人事の件
2. 会計年度の変更の件
3. 昭和49年度事業報告承認の件
4. 昭和49年度決算報告承認の件
5. 昭和49年度剰余金処分(案)承認の件
6. 昭和50年度事業計画(案)承認の件
7. 昭和50年度収支予算(案)承認の件

以上の議題につき審議、可決したが、次にその概要をのべる。

1. 役員人事について

(1) 嘉戸 勝理事(クミアイ化学工業)が退任し、後任として滝田 清氏(クミアイ化学工業・研究開発部長)が理事に就任した。

(2) 浅井湧文理事(全農)が退任し、後任として大橋堅太郎氏(全農・肥料農薬部長)が理事に就任した。

(3) 田中福寿理事(武田薬品工業)が退任し、後任として古田英也氏(武田薬品工業・農薬事業部長)が理事に就任した。

(4) 藤巻竹千代氏(当協会東北支部長)が理事に就任した。

(5) 井上利志栄氏(当協会九州支部長)が理事に就任した。

2. 会計年度の変更について

会員会社の会計年度を調査したところ、4月～3月に変更するところが多くなりつゝあるので、この議案は時流に反するので取り下げることとした。

3. 昭和49年度事業報告承認について

(1) 特別試験研究関係

昭和49年度より農林省農林水産特別研究費補助金の交付を受け、除草剤の作用特性検定方法の簡易化を検討し、新除草剤の検定法の能率化をはかるための研究を行なった。

(2) 受託・委託試験関係

昭和48年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験受託点数は272点(72薬剤)、昭和49年度夏作関係は2,032点(396薬剤)、合計2,304点(468薬剤)であった。その試験結果は、昭和48年度冬作関係では72薬剤中、実用化16薬剤、実～継16薬剤、継続35薬剤、継続?1薬剤、保留4薬剤であり、昭和49年度夏作関係では396薬剤中、実用化63薬剤、実～継186薬剤、継続125薬剤、継続?14薬剤、中止6薬剤、保留2薬剤であった。

昭和49年度夏作関係委託展示圃の供試点数は、水稻1,022点、果樹・桑関係15点、計1,037点であった。

昭和49年度農薬剤量分析関係の受託実数は、作物残留量分析が67件、土壌残留量分析が25件であり、審査済件数は作物残留量分析が37件、土壌残留量分析が13件であった。

4. 昭和49年度収支決算報告について

(1) 一般会計

収	入	456,036,725円
支	出	438,341,049
未処分剰余金		17,695,676

(2) 特別会計(農林省補助金)

除草剤の作用特性検定方法の簡易化に関する研究費

収	入	1,209,514円
支	出	1,209,514
差	引	0

5. 昭和49年度剰余金処分について

当期末処分剰余金	1 7,695,676円
次年度繰越金	5,000,000
研究所建設特別勘定へ	12,695,676

6. 昭和50年度事業計画について

〔事務局〕

- (1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究
エチレン類の開発利用，高度安全性除草剤の開発利用，パイダスターによる少量散布および散布能率の向上，除草剤の永年使用による土壌および作物に及ぼす影響，多年生雑草（非農耕地）防除用除草剤の利用開発，生育調節剤の体系処理，除草剤の体系処理等に関する調査研究。

- (2) 植物調節剤試験の受託・委託
春夏作および秋冬作関係除草剤・生育調節剤の受託・委託，展示圃試験の受託・委託，作物・土壌残留量分析の受託・委託。

- (3) 植物調節剤の試験成績検討会の開催
(4) 植物調節剤に関する試験成績書の印刷
(5) 研究成果の研究・普及・行政当局に対する説明会の開催
(6) 植物調節剤に関する研究会・講習会の開催

〔研究所〕

- (1) 植物調節剤の開発利用の調査研究
雑草害に関する生理・生態的研究，除草剤の作用特性検定法の簡易化研究，土壌残留性除草剤の解毒性植物の探索に関する研究，除草剤の殺草機構に関する雑草間差異に関する研究，相剝作用拡大のための除草剤の混合施用の確立，除草剤の節減技術探索，新生育調節剤開発の方向性に関する研究，生育調節剤利用の体系化に関する研究，生育調節剤検定法の簡易化に関する研究。

(2) 植物調節剤の試験受託

水稻関係除草剤第一次選抜試験（沖縄），除草剤作用特性試験（牛久），除草剤・生育調節剤適用性判定試験，生育調節剤および資材の開発に関する研究，新除草剤開発の方向性に関する研究。

(3) 研修生の受け入れ

7. 昭和50年度収支予算について

1) 一般会計

(1) 収入の部

受託試験費	404,071,000円
研究会	7,160,000
評議員会費	7,000,000
預金利子	3,500,000
雑収入	259,000
寄付金	100,000
前期繰越金	5,000,000
計	427,090,000

(2) 支出の部

委託試験費	265,633,000円
研究会	6,160,000
事務局費	80,100,000
研究所費	54,110,000
支部経費	8,577,000
退職年金	2,500,000
植調補填金	3,000,000
償却資産修繕費	100,000
研究資質向上費	2,000,000
予備費	5,000,000
計	427,090,000

2) 特別会計

- (1) 除草剤の作用特性検定方法の簡易化に関する研究費（農林省農林水産技術会議事務局補助金）

収入の部	1,200,000円
------	------------

支出の部 1,200,000円
 (2) 除草剤使用節減技術検索事業委託費(農
 林省農蚕園芸局補助金)
 収入の部 5,556,000円
 支出の部 5,556,000円

◎ 会議開催日程

- ・昭和50年度春夏作水稻第一次適用性試験中
 間成績現地研究会(北陸地域)
 日時:昭和50年6月17日(火)
 場所:新潟県農業試験場, 北陸農業試験場
 北陸地域適一試験圃場
- ・昭和50年度春夏作水稻関係除草剤中間現地
 検討会(東北地域)
 日時:昭和50年6月25日(水)~26日(木)
 場所:福島県農業試験場, 会津支場
- ・昭和50年度春夏作水稻・畑作関係除草剤等
 現地研究会(北海道地域)
 日時:昭和50年6月25日(水)~7月1日(火)
 場所:北海道農業試験場, 北海道中央・十
 勝・北見・天北・上川農業試験場

- ・昭和49年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生
 育調節剤試験成績検討会
 日時:昭和50年7月3日(木)~5日(土)
 場所:北海道共済会館(札幌市中央区北8
 条西19丁目)

◎ 人事異同

昭和50年2月1日付
 命 研究所 技師 竹下孝史
 昭和50年3月31日付依願退職
 免 研究所 技師 浅野紘臣
 免 事務局 技師 引場幹子
 昭和50年4月1日付新規採用
 任 事務局 技師 立野篤男
 任 事務局 技師 樋口恵子

◎ 九州支部の発足について

昭和50年5月14日, 鹿児島市において発
 会式を行ない, 支州支部として新発足したが,
 初代支部長には井上利志栄氏が就任した。事
 務所は福岡県におく。

編集後記

芒種の頃ともなると, 水田には水がみなぎり
 各地で田植えの風影が展開される。夜ともな
 ると蛙の合唱に合わせて螢が飛び交い, 農村なら
 では味わえぬ情緒を満たす。

雑草の種子の発芽も旺盛となり, 除草剤を散
 布しようと思っている内に, 褐色の大地が一面
 緑の海と化してしまう。こうなると雑草退治も
 大変面倒なものである。茎葉処理剤で全面的に
 枯殺するのも味けない。エイッ……面倒でも伸
 びるだけ伸ばしてやれ, という気にもなってく
 る。庭園などでは, 雑草の緑も社会生活に疲れ
 た人間の心をいやしてくれるかも知れぬ。

しかし, これが実を結ぶ頃までには抜きとり,
 土壌処理剤でも散布しておこうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
 東京都港区芝西久保桜川町26番地
 電話 東京(03)502-4188(代)

昭和50年6月発行

植調第9巻第3号

¥250(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
 発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-8 全国農村教育協会内
 発行所 植調編集印刷事務所
 電話 東京(03)436-3888番

氣長に抑草、氣楽に造林

＊宿根性イネ科・カヤツリグサ科雜草防除に

フレノック 粒剤
液剤

＊クズの抑制枯殺に

クズノック 微粒剤

三共の水田除草剤

＊水田初期除草剤

三共 **MO** 粒剤-9

＊水田一般雜草に

三共 **マーシェット** 粒剤5



三共株式会社

農薬部 東京都中央区銀座3-10-17
支店 仙台・名古屋・大阪・広島・高松

北海三共株式会社
九州三共株式会社

資料進呈

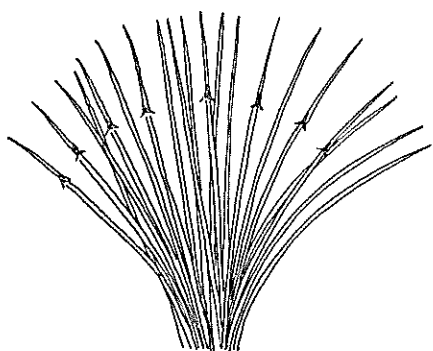
除草剤の強カメンバー

＊水稲直播・陸稲・甘藷・レタス・芝に＊
スラム乳剤
＊水田除草全般に＊
ニップ粒剤
＊ウリカワと一般水田雜草防除に＊
モゲサント粒剤
＊畑作全般・水稲直播・林業苗畑に＊
ニップ乳剤
＊畑作の省力除草に＊
畑作用ニップ粒剤

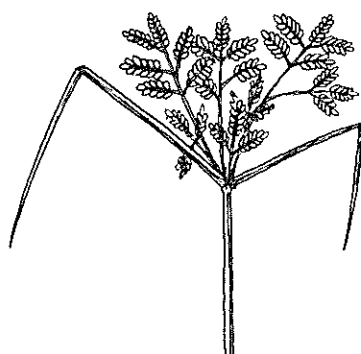
製造元 **東京有機化学工業株式会社**
農薬・イオン交換樹脂・化学品の総合メーカー

発売元 **三洋貿易株式会社**
〒101 東京都千代田区神田錦町2の11

●お求めは農協又は特約店でどうぞ…〈店名ご記入の上、発売元へご請求くだされば説明書進呈〉



ホタルイ



ミズガヤツリ

ホタルイ、ミズガヤツリにも！

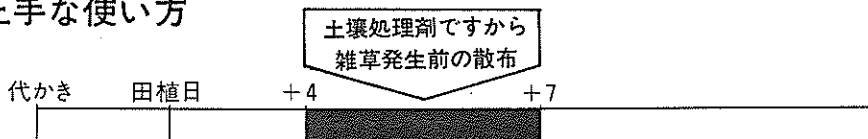
マーシェット粒剤 5

※米国モンサント社商標

■特 長

1. ノピエ、マツバイはもちろんのこと最近問題のホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オオアブノメにも良く効きます。
2. 効力の持続期間が長い(普通40日間)ので、本剤の処理で十分な効果が期待できます。

■上手な使い方



マーシェット普及会

三 共(株) 日本農薬(株) 北興化学工業(株)

事務局 日本モンサント株式会社

〒100 東京都千代田区丸ノ内3-4-1 新国際ビル

資料請求券
④ 係

われら300の仲間



安心とユトリをつくる

水田の草とりはおまかせください。
安全で効きめが確かなサターン剤は
いまいちばん多く使われている除草
剤です。
米づくりに今年も“サターン作戦”
でユトリをおつくりください。

サターンS[®]粒剤



申込みは皆様の農協へ
自然に学び自然を守る



東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル

サターンM[®]粒剤

サターン[®]乳剤

サターン[®]粒剤

サターンバード[®]乳剤



期待に応えて新登場!!

多年生・一年生
雑草の同時防除に

ラメット[®]SIMI粒剤

- ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、
ヘラオモダカなど、最近急激に問題化している
多年生雑草をも防除できます。
- ノビエの3～4葉期処理でも卓効があります。
散布適期幅が広いので、労力配分が容易で大変
省力的です。
- 人畜、魚類にも安全です。



八洲化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)



三笠化学工業株式会社
福岡市中央区天神4-9-1